

平成29年 5月11日

学校法人 ぜんりょう学園
専門学校 北九州自動車大学校
校長 加藤 雅人

「自己評価及び学校関係者評価結果 平成28年度版」 報告

学校法人 ぜんりょう学園 専門学校 北九州自動車大学校は、平成28年度 自己点検、自己評価を実施して、規程に基づき学校関係者評価委員会を開催し、専修学校設置基準、学校教育法、同法施行規則の学校評価に関する規程により「自己評価及び学校関係者評価結果 平成28年度版」を公開致します。

学校関係者評価委員会のご意見を真摯に受け止め、学校教育の向上、学校運営の更なる向上を目指し、教職員一同、努力して参ります。今後共、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

○ 学校関係者評価委員名簿

名 前	評価委員
椛島 大希	一般社団法人福岡県自動車整備振興会 北九州事務所所長
金丸 孝弘	株式会社ワークホイール 福岡営業所所属
成重 哲	株式会社スズキ自販福岡 小倉営業所所属
宮本 達也	株式会社グリーンライン保険サービス所属
穂枝 浩志	同窓会役員

(1) 教育理念・目標・人材育成像

評価項目	具体的取り組み	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・学校の理念・目的・ 育成人材像は定めら れているか	学校創立以来、建学の精神や教育方針に沿って、 その実践職業教育を継続している。育成人材像に ついては学年で検討し、指導目標の統一を図った	4	会社内の業務が的確に処理できる ことを明確化し、卒業時には、そ の育成人材像となるよう改善した い。	
・学校における職業 教育の特色は何か	メーカー校との差別化を強調している。多種類の 車両や教材と学科構成により幅広い対応と成って いる。	4	学校教育でしか学べないこともあ るので基本を徹底的に体得させ、 企業から期待される人材を育成し たい。	車両整備に関する技術もさ ることながら社会人に向け ての基本の体得に今後も期 待します。
・社会のニーズ等を 踏まえた学校の将来 構想を抱いているか	社会ニーズを取り入れた教務計画を作成してい る。全体を振り返り、目標が達成できるよう実施 している。	3	各年に実施した活動を振り返り、 改善等が必要であれば行うこと。	
・学校の理念・目的・ 育成人材像・特色・ 将来構想などが学 生・保護者等に周知 されているか	各学科の教育目標、育成人材像については学生便 覧に明示している。その目標に向かって人材育成 に努めている。学生便覧は保護者にも周知できて いる。	4	現在の取り組みを継続する。	
・各学科の教育目標、 育成人材像は、学科 等に対応する業界の ニーズに向けて方向 づけられているか	1級4年生においてインターンシップを実施して おり、企業からの情報を収集し授業に反映させて いる。インターンシップ発表会を実施し、企業ニー ズを、学生・教職員にフィードバックしている。	4	年々企業との連携が密になってお り、様々な機会を設け成果ある教 育活動に発展させたい。	一級課程については先進的 な内容の学習も有効ではあ るがメーカーの違いがある ので先進的な内容は就職し てから学習ということでも よいのではないかと。

自己評価点数 4、適切 3、ほぼ適性 2、やや不適 1、不適

課題と将来に向けての学校のあり方や考え

将来構想については、年度ごとの計画が立案遂行されるが、内容の周知は教職員に限られるため、今後は公開方法も検討する。

社会のニーズは大きく変化していくと考えている、自動車の更なる電子化、自動運転や電気自動車またインターネット、スマートフォン活用は周知であり
A I時代の自動車整備士を養成する教育機関として将来の自動車整備士の姿はまだ不透明ではあり今後の大きな課題である。

(2) 学校運営

評価項目	具体的取り組み	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	学校の目的、目標に基づいた学校運営方針は明確である。教務課・学生課・庶務課・進路支援センターを含め、目標が作成され、全職員に認識されると同時に活動の基軸となっている。運用についてもスムーズに展開できている。	4	環境の急変な対応については、速やかかに行動したい。また、問題の共有化を推進する。	
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	毎年度3月までに運営方針に沿った事業計画を策定し予算を作成している。	4	今後も継続する。	
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか	毎年、校務分掌表を配布し詳細を説明している。組織の発展と存続と教職員育成を含め、自己申告も参考に教職員を適材適所に配置している。	3	科の独自性や責任性が明確になったことによる、各科の連携体制が不足していると感じる。	
・人事、給与に関する規程は整備されているか	就業規則、教職員給与規程、退職手当給与規程等により、人事、給与にかんする取り決めに項目ごとに定めている。	4	法令改定や社会情勢の変化等を踏まえ、改善が必要な点がないか確認を行い、現状に即した規程となっているか今後も見直しが必要である。	
・教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	意思決定システムはほぼ確立されていると理解しているが意思決定や日常業務において階層を理解できず行動が伴わない場面もある。	3	各教職員の職責や役割を自覚した行動を期待したい。報告連絡相談が機能していない場面が多々ある。意識の変革を促したい。	
・業界や地域社会等に対するコンプライ	法令順守については個人情報管理の規程を制定し運用している。本年度は苦情等対応も含め周知して	4	運用面においては教職員の意識やモラルに頼るところが大きいので	法令順守されているので今後も継続をお願い

アンス体制が整備されているか	いる。		学校として意思統一を図ることが重要と考える。	する。
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	ホームページ上に公開している。また日々のトピックスもホームページ上で公開し周知している。	4	文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」に従い、公開している。	ホームページは充実している 非常によいと感じる
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	出席、遅刻管理システムを導入により近年業務内容における情報量の拡大にも対応できる運用が可能となった。このシステムにより教務課、担任の情報の共有できるようになった。	4	システムにおいては問題を感じていない。	

自己評価点数 4、適切 3、ほぼ適性 2、やや不適切 1、不適切

課題と今後に向けての考え

教育の原点である教職員の向上心やモチベーションアップの為勉強会を設け、個々は勿論、学校全体として成長を促して行きたい。

情報システム・管理システム等の利便性が高まるにつれ、業務の量が増加する。問題意識を持つことが重要で、各システムの見直しや連携強化を進めることにより、更なる効率化を図りたい。

ホームページを活用し、日頃の教育活動に関する情報の配信は行っているが、配信回数がまだまだ足りないと考えている。

(3) 教育活動

評価項目	具体的取り組み	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
<p>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</p>	<p>教育課程の編成については、国土交通省の規程に沿って実施している。また「教育課程編成に関する規程」を定め、教育課程編成委員会の意見を反映させている。</p>	<p>4</p>	<p>定期的に見直しを行っており、特に課題を感じていない。</p>	
<p>・教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応し時間の確保は明確にされているか</p>	<p>教務課の目標として、教育到達レベルを提示しており、教職員は目標とする育成人材像に近づくよう教育活動を展開している。H28年度は定めた各実習項目の見直しを行い実習場に掲示した。</p>	<p>4</p>	<p>育成人材像及び育成目標について明確化しているが、実際の教育にどう反映させるかが課題である。</p>	
<p>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</p>	<p>各学科の目標達成に向けカリキュラムが構成されている。国土交通省が監督官庁であるため指定基準が決められており、不定期ではあるが基準内でカリキュラムを見直し、業界との格差が発生しないようにしている。</p>	<p>4</p>	<p>定期的に見直しを行っており特に課題を感じていない。</p>	
<p>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</p>	<p>社会人として必要な人間性を身に付けることを教務目標としており、担任を中心に指導を実施している。学校関係者評価委員会の外部委員からの意見についても可能な限り導入している。</p>	<p>3</p>	<p>キャリア教育の質向上には教員のスキルアップが課題である。学校としてのキャリア教育プログラムを構築する必要がある。</p>	

<p>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</p>	<p>企業及び業界団体から委員を迎え教育課程編成委員会会議を開催している（年2回）その中で、シラバスの見直しを行った。</p>	4	<p>定期的に見直しを行い、企業ニーズに合った教育になるよう改善する。</p>	
<p>・関連分野における実践的な職業教育（座学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか</p>	<p>一級4年生時にインターンシップを実施している。企業と連携し1年生に対しては自動車点検実習、2年生に対しては、故障診断実習を実施しておりシラバスにも明記している。</p>	4	<p>企業側も学校教育に協力的であり、協力企業に感謝している。特に課題を感じていない。</p>	<p>講師派遣実習は素晴らしい取り組みだと思います。現場の生の声が重要です。</p>
<p>・授業評価の実施 ・評価体制はあるか</p>	<p>授業評価は年2回実施している。また、評価の低い授業担当者には校長が個人面談を実施し授業のアドバイスを行うことで改善を図っている。</p>	4	<p>アンケート結果を個人の目標に結び付け評価しているが教員で差が出る。今後の課題である。</p>	
<p>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</p>	<p>学校関係者評価委員会により評価を行っている。</p>	4	<p>学校関係者評価委員会にて評価をいただいているので課題を感じていない。</p>	
<p>・成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか</p>	<p>成績評価基準は学校側の主導により明確に定めてあり、学生には学生便覧（教務規定掲載）、を全員に配布し周知徹底している。</p>	4	<p>学生便覧（教務規定掲載）に明記されており、特に課題を感じていない。</p>	

<p>・資格取得等に関する指導体制カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</p>	<p>整備士資格以外はカリキュラム上には定められていない。夏季休暇等を利用し、資格取得のサポートをしている。必須資格と選択資格に分け学生の能力・ニーズにより選択できる体制をとっている。</p>	<p>4</p>	<p>資格合格率、取得率とも高い。学生のモチベーションを維持することができ成績が向上した。年度により成績に大きな差が生じないように実施要領を定めたい。</p>	
<p>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか</p>	<p>第一種養成施設の指定基準に準拠するため必要があるため資格や経験年数及び学歴等を満たした教員を採用している。また一級未取得職員であっても、上質な技術、高度専門知識資格を満たしている。</p>	<p>3</p>	<p>職員の一級整備士取得率が高くない。朝礼や職員会議等において啓発を行い、教員の意識改革を行いたい。</p>	
<p>・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか</p>	<p>H28年度は企業の方に本校に出向いて頂き、実践的な教育を提供する取り組みを実施する予定であったが実現は出来なかった。しかし実習においては短期間ではあるが実現できた。</p>	<p>3</p>	<p>社会の慢性的な人材不足に伴い、本校においても人材確保が困難な状況である。</p>	
<p>・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか</p>	<p>整備振興会による新技術研修は毎年科目担当教員が受講している。新技術に関しても企業と連携し、全教員研修を実施した。</p>	<p>3</p>	<p>整備振興会による新技術研修は毎年科目担当教員が受講している。全教員が受講できるシステムの構築が必要である。</p>	

・職員の能力開発のための研修等が行われているか	新人教員に対し職務要件を満たすように優先して行っている。また研修は個人で希望すれば研修に参加させている。	3	自主的に参加する人数を増やしたい。	
-------------------------	--	---	-------------------	--

自己評価点数 4、適切 3、ほぼ適性 2、やや不適切 1、不適切

課題と今後に向けての考え

キャリア教育を行うには育成する人材の明確化が重要で、企業ニーズに合わせた、また取り入れたものになるように改善を図ることが重要で教員の指導力・知識力・技術力が課題と考えており、研修を実施して適時実施していくことが必要である。

教員の能力開発のための研修への参加は、昨年の頻度と比べると足りない印象である。企業側からの講師派遣実習が、学生・教員に良い影響を与える。

今後も企業側と更に充実した教育活動を連携し推進を図りたい。

二輪自動車整備科への企業側からの実技講習の実施が自動車整備科と比較すると圧倒的に少ないが、教員の努力の結果、二輪業界も重要性を感じ増加する傾向である。

学生からの授業評価アンケートを科目ごとに実施し教員の自己分析に利用している。

自動車関連企業より4社が本校教育課程編成委員会に参加して年2回実施している。この場で教育課程編成委員会の意見を参考に今後の計画内容を検討している。

(4) 教育成果

評価項目	具体的取り組み	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・就職率の向上が図られているか	学校に求職希望を提示した学生を対象に就職斡旋を行っている。面接指導や書類作成に関する指導は担当がきめ細かく行い、就職率の向上を図っている。社会教養学を導入し面接指導や書類作成の講義も実施している。	4	現在の社会情勢を理解させること。自分に合った企業選びをさせることを指導する必要はある。	
・資格取得率の向上が図られているか	各資格に対する合格率の目標を教員は個人の目標に結び付けている。受験対策に関しては各学年で工夫している。	3	担当教員の資格取得に対する意識を高め、かつ効率の良い実施方法を再検討する必要がある。また、学生のモチベーションを維持することも検討を要する。	二級を取得できずに入社してきた新入社員の離職率はとても高いので100%にはどこまでもこだわって欲しい。
・退学率の低減が図られているか	1年生に対しては、組織的、計画的に担当が面談等で退学者の減少に努めている。対応が困難な場合は、担任以外の教員が指導を実施しているが減少に繋がらない。	2	毎年の退学者数に大きく変化は無い。その要因は教員の指導方法や自動車整備士の社会性や重要性の認知度が低いことがある。課題は多い。	自動車整備士の重要性をもっとアピールする必要がある。
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	卒業生の活躍を把握するのは難しいが、企業との情報交換により把握するよう努めている。	4	卒業生の活躍を把握するためには、企業との連携を密にして機会を多くすることが必要である。	
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	今年度は体験実習にて卒業生が技術指導を行うことが多く、卒業生の成長を感じる事が出来た。	3	卒業生と接する事により学校教育において必要性を感じる事項の聞き取り調査を行う必要がある。	

自己評価点数 4、適切 3、ほぼ適性 2、やや不適切 1、不適切

課題と今後に向けての考え

資格取得率や合格率が近年、一定水準をキープする傾向（一級自動車整備科）と全員合格（二輪自動車整備士コース）傾向、高低傾向（二級自動車整備科）が明確になっている。資格の必要性を伝える教職員の熱意は健全であるが指導方法の改善を図る手段として個々の学生の弱点の明確化を図る為マークシートによるデータ化を導入した。二級課程に関しては全員が取得できるように、一層の改善工夫が必要と考える。

退学率については、ここ数年の大きな課題である。退学理由は様々であるが勉強意欲の衰退と経済的事由が目立っている。交通事故等々の難しい理由もあるが、自動車整備の社会的意義や楽しさを伝えながらも躰教育の両立を検討し人材育成に努めることが必須課題である。

<u>参考</u>	28年度の退学率	9.7%
	一級自動車整備士合格率	61%（2年次修了時に全員二級ガソリン、ジーゼル取得済）
	二級ガソリン自動車 "	93%
	二級ジーゼル自動車 "	90%
	就職希望者に対して	100%

(5) 学生支援

評価項目	具体的取り組み	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
<p>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</p>	<p>本校では進路支援センターを開設し、職業指導の基本方針、対策、情報収集、求人開拓のための企業訪問等を積極的に展開し、各地の職業安定所と綿密な連携を保ちながら多数の求人獲得に努力している。その結果、集められた資料は就職を希望する本校学生ならば誰もが自由に閲覧でき、就職活動の指針として参考にしている。</p>	<p>4</p>	<p>クラスによって指導内容に差が生じないように担任への就職活動への取り組み指導に努めるとともに、直接の窓口になる教員が学生指導に当たっている。採用試験において特定の企業に希望が集中する傾向がないように、各企業が魅力をアピールできる態勢を作り、偏りなく就職できるように努めている。</p>	
<p>・学生相談に関する体制は整備されているか</p>	<p>学生からの相談は、主にクラス担任が対応する、またセクハラに関する相談も女性教職員が担当し気軽に相談できる窓口も用意され女性教職員採用で女子学生の相談体制は整っている。</p>	<p>3</p>	<p>学生の相談体制については相談内容によっては単独よりも複数の教職員が関わった方が問題のとらえ方が深く厚くなるケースもあるため教職員間の情報共有を密にする。特に人間関係に関する案件については慎重に対応する必要がある。</p>	
<p>・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</p>	<p>入学金の減免、授業料の減免、日本学生支援機構等の奨学金制度、企業奨学金制度、学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しており専門学校評価基準を十分に満たしている。</p>	<p>4</p>	<p>アルバイトに従事できる時間を少しでも多く設ける。しかし、夜間のアルバイトによる遅刻・欠席の増加、退学など問題の解決にはなっていない。</p>	

<p>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</p>	<p>年に一回の健康診断が行われており学生の健康管理は適切に実施されている。学生の薬使用状況は管理表にて適時されている。</p>	4	<p>放課後の時間における対応は現状では現場にいる教職員の判断に任せている。</p>	
<p>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</p>	<p>課外活動は授業時間数が多い中では十分に支援できているとは云えない。顧問である教職員の負担は大きい、不満を持つこともなく積極的な活動支援を行っている。女子学生向けにエンジン分解組立講座を開催して作業不安をなくす支援活動を行っている。</p>	3	<p>課外活動は同好会顧問のボランティアによるところが大きいので、今後は顧問への支援体制を検討したい。</p>	<p>学生フォーミュラやエコランに参加することで、とてもよい勉強になる。自動車への興味が一層深まるのでそのような機会が出来ることはよい事である。また女子学生向けの講座も非常によいです。</p>
<p>・学生の生活環境への支援は行われているか</p>	<p>指定寮は遠隔地出身者を優先的に紹介し入寮させており支援は行われている。また、指定寮には寮長を選任し毎月報告書を提出し状況を把握している。</p>	4	<p>近年、指定寮の入居者は減少しアパートでの一人暮らしが増加している。</p>	
<p>・保護者と適切に連携しているか</p>	<p>クラス担任と保護者との懇談を実施し、年1回全学年保護者会を実施している。また必要に応じて保護者に連絡を行うことで学校生活に関する相互理解に努めている。</p>	4	<p>可能な範囲において十分な連携が図られており特に課題を感じていない。</p>	
<p>・卒業生への支援体制はあるか</p>	<p>定期的に同窓会役員会を実施しており、総会の案内を行っている。また、卒業後の状況については企業採用担当者と本校就職指導担当者とで情報の共有を行っている。</p>	3	<p>同窓会の活動を活発にするため、本校ホームページにバナーを設けた。卒業後、数年経った離職者に対する就職支援の準備はあるが申し出が少ない。さらなるホームページの利用を検討したい。</p>	

・社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	窓口はないが、進路支援センターを中心に企業ニーズの聞き取りを行い、それをカリキュラムに反映させている。職業実践専門課程として企業に授業を実施していただき企業ニーズを直接学生に伝える場も用意している。	3	企業が積極的にニーズを発することができる体制を検討する。また、集められた企業ニーズをどのように授業へ取り込んでいくか工夫が必要である。	
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	高校に訪問して、自動車整備士の仕事や自動車業界の紹介を実施している。さらに自動車整備の模擬授業も展開している。	4	専門学校が高校生に対して職業教育を実施することを高校側が望むような手段をさらに推進させる。	

自己評価点数 4、適切 3、ほぼ適性 2、やや不適切 1、不適切

課題と今後に向けての考え

学生からの相談は担任が受けることが多いが、面談スキルや指導スキルに差がある、その差を少なくする研修を行う必要がある。

卒業生支援については、同窓会活動の充実の必要があり、その一環として同窓会役員の改選を実施した。また、本校ホームページに同窓会バナーを設置した。さらに facebook を活用し積極的な活動を推進している。

就職支援については企業側が実施する説明会への積極的な参加指導、更に校内での企業説明会を実施することで希望者の意思とのミスマッチを防ぐことで就職内定率は100%を達成している。

学生への経済的な支援体制は、特待生制度、グループ校奨学金制度、女子奨学金制度、日本学生支援機構奨学金、各種教育ローン、学費サポートプランを準備し整っていると評価しているが学生自身が主体的に行動できるよう支援していきたい。

課外活動は、現在ラジコン同好会が活動を行っているが活動が少ない、理由は学生から課外活動を行いたいとの要望がほとんど挙がらないこともある。

若い教職員がカスタムカーショー見学を希望して実行した。以前のように学生と車両作成する活動に積極的に取り組める体制を作り、平成29年度エコマイレッジチャレンジや平成30年度から学生フォーミュラの参加を実施する。また女子学生向けに、エンジン分解組立講座を放課後に開催し、工具の使い方や手順等を経験することで作業不安の解消につなげた。

(6) 教育環境

評価項目	具体的取り組み	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	第一種養成施設の指定基準を満たし有効に活用していると判断する。教育用機器・教材に関しては実習計画に沿って年度毎に計画的に購入しており良い教育環境が整いつつある。また企業からの教材車両等の提供が増加している。	4	施設面では物理的容量もあるが部品数や交換も将来構想のなかで検討し計画的に整備したい、	施設の充実度合いに驚いている。 今後も維持・発展して頂きたい。
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修について十分な教育体制を整備しているか	一級課程のインターンシップは第一種養成施設指定基準として明確に定められている。確実な成果として認知している。海外研修は現在実施していないが東京モーターショーと東京モーターサイクルショー見学はコース別に実施している。	4	特に問題はない。	
・防災に対する体制は整備されているか	地震災害時の連絡体制については緊急連絡放送や避難経路・避難場所を各教室に掲示することで対応している。緊急時の連絡体制は学生にも周知しており、また、消防署と連携し学園全体で訓練を実施している。	4	災害発生時の具体的な行動基準を定めた災害対応マニュアルを作成する必要がある。	

自己評価点数 4、適切 3、ほぼ適性 2、やや不適切 1、不適切

課題と今後に向けての考え

施設は整備されており充足されている。教材・機器については年度ごとに担当が確認し、不足分や新規補充は実施されている、また企業様からの提供も増えている。この教材をもっと活用できるよう教育内容の見直しを実行中である。

インターンシップの教育体制は現状では適切に整備されている。国内の研修旅行も実施しているが海外研修は行っていない。自動車産業もグローバル化の道を辿っていることから今後在学中に海外での経験を積めるような取り組みの必要性を感じるが、現行において経済的負担を考えると難しい。

防災に対する体制は、消防署立会いのもと学園全体で実施している。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	具体的取り組み	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・学生募集活動は、適正に行われているか	毎年度、学生募集計画及び中長期学生募集計画を立て、従来から存在している各制度の見直しを行うなど環境の変化に適応しながら状況を分析し学生募集活動を行っている。	3	県内広報活動の展開に加え、県外にも積極的に活動したい。一級課程や二輪自動車整備士コースに対する学生募集も課題である。	最近の入学者数の減少は寂しい部分ではあるが本校の教育内容や特色はとても素晴らしいと思っている。
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	資格取得状況や就職状況は志願者が専門学校を選択する上で、大変重要な判断材料である。国土交通省運輸局による高校訪問活動の信頼性を高めるとともに、志願者や各高等学校への教員によるガイダンスの実施やホームページ上でもそれらの情報を公開している。	4	卒業生の活躍を公表し同窓会などを通じて志願者を拡大する。	
・学納金は妥当なものとなっているか	教育内容や充実度など他校の状況等を勘案して学納金額の見直しを行っている	4	今年度より消費税増税等による影響を勘案し、学納金値上げを実施した。それでも他校と比較すると安価に抑えているが、経済的に困窮している世帯は年々増加しており、負担に耐えうるよう奨学金制度の周知を積極的に行っていく必要がある。	

自己評価点数 4、適切 3、ほぼ適性 2、やや不適切 1、不適切

課題と今後への考え

学生募集活動は、厳しい状態にある。福岡県専修学校各種学校協会や高等学校進路指導研究会による取り決め事項等を遵守した上で、志願者が適切な進路選択が行えるようパンフレットや進路情報企画への掲載、ホームページでの情報公開、複数回の学校見学の機会を設定し高校ガイダンスへの教職員派遣などで広く情報提供を行っている。国土交通省運輸支局長が県下の高校を訪問し整備士への理解を求める訪問を実施しているが、年間でわずか10校であり成果に繋がっていない。自動車産業は国の基幹産業であり整備士不足をアピールする必要がある。先進自動車に対応できる整備士が求められる時代を踏まえ

て一級・二級自動車整備士の育成を基軸とした教育が本校の役割である。先進技術に対応するメカニクの重要性を強くアピールし積極的な募集活動を行って行きたい。18歳人口の減少、若者の車離れが主な原因なのか、ここ数年の募集結果については満足した数字を残していない。参考：平成28年度入学者数84名（27年度100名）

(8) 財務

評価項目	具体的取り組み	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	財務基盤については、一切の負債を抱えておらず現在のところ中長期的に安定していると言える。	3	学生募集の不振、退学者増加の影響が大きく、改善が急がれる。また余剰資金の運用について近年の低金利政策の影響により運用先がなく、運用基準の見直しが必要である。	
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	毎年度3月までには次年度予算を立て、収支計画を行っている。収入に即した支出計画となるよう節約に努め、長期的な事業計画については適切な支出を行っている。	3	学生募集、退学者減少への対策が急務であるが、収入減に対応して体制の見直しも視野に入る必要がある。	
・財務について会計監査が適正に行われているか	顧問税理士の指導の下、毎年定例の会計監査を実施している。監査で指摘を受けた際には直ちに改善を行っている。	4	今後も継続する。	
・財務情報公開の体制整備はできているか	毎年度の決算については、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照法、財産目録を用いてホームページ上に公開している。	4	今後も継続する。	

自己評価点数 4、適切 3、ほぼ適性 2、やや不適切 1、不適切

課題と今後への考え

学生募集の不振については改善が急がれる。また余剰資金の運用について近年の低金利政策の影響により運用先がなく、運用基準の見直しが必要である。

(9) 法令等の遵守

評価項目	具体的取り組み	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令や設置基準や監督官庁の許認可などの届出等定めは適正に遵守されている。	4	法令順守の取り組みは信頼の基盤である。教育現場においても徹底する必要がある。	
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	個人情報保護の規程を定め、個人情報が漏えいしないようにしている。個人データの磁気記録の取り扱い、紙面による情報の漏えい防止等、学校が有する個人情報や使用方法は適正な管理がなされている。	4	より一層の個人情報管理を徹底する必要がある。	
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	自己点検・評価を実施して毎年見直しをしている。抽出された問題点を改善し本校の健全性を保っている。授業アンケートは教育の充実には不可欠な項目であり積極的に実施している。その内容について学校関係者評価による検証も行っている。	4	定期的に確認することにより結果として自己点検・評価のレベルアップに繋がっているため、今後も継続し、精度を向上させていきたい。	
・自己評価結果を公開しているか	自己点検・評価の公開についてはホームページ等で公開している。	4	特に課題を感じていない。	

自己評価点数 4、適切 3、ほぼ適性 2、やや不適切 1、不適切

課題と今後への考え

自己点検・評価については毎年見直しを行ない、結果として多くの項目の改善に繋がっている。

学校関係者評価においても継続効果が表れており、良い方向に進んでいると考える。

個人情報保護に対しては、教員の意識の差を感じるため、より一層個人情報の取扱いに対する意識の向上を図りたい。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	具体的取り組み	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を積極的に実施しているか	学園祭を実施して幼稚園児・小学生の体験学習を積極的に受け入れており本年度もサイエンスコーナーに多くの児童や生徒が参加。また、環境問題に取り組みクリーンアップ北九州に全学生が参加して積極的な活動を展開した。	4	学校の地域貢献の一環として地域清掃活動には積極的に取り組んでいきたい	
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	年2回の献血活動を行っている。また学園祭イベントでの売り上げを災害支援として奨励しているが体制はまだ不十分である。	4	地域要請に合ったボランティア活動になるよう内容を検討したい。	
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業を積極的に実施しているか	本校独自の高校生向け3級支援を実施している。他県の高校からも申し込みがあり分野別データ等のフィードバック体制も出来ている。	4	高校向け3級支援が入学者数に繋がっていないが本校の特色であり継続したい。	

自己評価点数 4、適切 3、ほぼ適性 2、やや不適切 1、不適切

課題と今後への考え

学校の施設貸出等は地域や業界への貢献の一環として積極的に行っている。

高校生向けの3級支援は今年で5年目である。参加の高校からは好評である。

(11) 国際交流 (必要に応じて)

評価項目	具体的取り組み	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	当該国の学校教育制度で所定の教育を修了もしくは一定期間修めた「留学生」は入学試験を受験できる。日本語学校へのアプローチも行っている。	2	留学生の受入れを拡大していくこと、また就職先を確保することが課題である。	
・留学生の受入れ・派遣・在籍管理等において適切な体制が整備されているか	現在留学生の在籍はない。今後に向けて受入れ体制を構築する準備はある。	2	外国人に対する在留管理の方法が変化しているため今後は注視する必要がある。	
・留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか	入学前、入学後の留学生担当職員の明記はない。修学や生活指導の体制を整える必要がある。日本語能力試験1級または同程度を有するものと定めている。	2	他校の聞き取り調査では退学者の多くが日本語能力不足に原因があると推察する。	
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	特に記載はない	2		

自己評価点数 4、適切 3、ほぼ適性 2、やや不適切 1、不適切

課題と今後への考え

労働人口の減少に伴い、今後は外国人労働者の採用が増加する見込み、また、採用を考えている企業の調査も必要である。

募集要項には留学生の項目を記載している。過去には実績があるが現在の在籍はない。